

学術部おすすめ！読んでおきたい特集記事

デンタルダイヤモンド／2016. 8月号（中島副委員長 記）

○実践歯学ライブラリー“矯正歯科 トレンドウォッチング 2016”（高橋正光 坂本紗有見）

* 矯正治療の新しい選択肢として注目を浴びている「ソーシャル6」「マウスピース型矯正治療装置」「レベリング用アタッチメント」について解説しどのように臨床応用していくのかを紹介している。「ソーシャル6」とは患者のニーズにこたえる前歯のみの限局矯正。「マウスピース型矯正歯科装置」では、その代表的装置の、①適応症の範囲内での限局的な治療のアソアライナーと、②マルチブラケット法に変わるフルマウスの治療のインビザライン。

「レベリングアタッチメント」では従来のブラケットと異なり、プラスチックのチューブ構造のプラスチックブラケットであるレベリングアタッチメント。について解説している。患者のニーズに合わせた方法であるが、組み合わせて適用することが必要で、適応症の選択とそれなりの矯正知識が必要であると感じられた。

○Dd”歯周外科手術“セミナー：フラップ手術の基本的な考え方とテクニック（平山富興）

* 歯周外科を行うのに知っておくべき、「切開線の入力方」「出血を少なくする切開」「剥離の仕方（全層弁、部分層弁）」「器具の使い方」「縫合の仕方」などのテクニックを含め、フラップ手術が上達するためのポイントを多くの図と写真でまとめてあります。歯周外科が苦手な先生にはきっと有益な内容だと思えます。

歯界展望／2016. 8月号（小野委員長 記）

○臨床家のための外科小手術 Check Point 8 小帯の異常

（森 良之 自治医科大学医学部歯科口腔外科学講座）

* 会員の先生方も、1. 5歳児や3歳児健診の時に、小帯の異常と遭遇することは、珍しいことではないと思う。口腔内には、上唇小帯、頬小帯、下唇小帯、舌小帯がある。中でも上唇小帯と舌小帯の強直症は、小児の場合審美障害だけでなく、哺乳障害や発音・構音障害などの原因となりやすい。小帯の異常は、成長時に歯槽骨の発育とともに自然に消失する場合もある。しかし、哺乳障害や構音障害が認められる場合は、早期の伸展術が必要になる。また成人の場合、頬小帯の位置異常による歯周病の悪化を認める場合も多いと思う。今回は、診断の要点から手術の時期や、必要な器具、術式まで多くの写真や分かりやすい図で解説している。口腔外科の苦手の先生もご一読の価値があると思われる。

ザ・クインテッセンス／2016. 8月号（岡崎副委員長 記）

○オーラルフレイル 今、歯科医師が考えるべきこと、できること（岩佐康行 荒井秀典 渡邊 裕）

* オーラルフレイルは「ささいな」滑舌の低下、食べこぼし・むせの増加、噛めない食品の増加などの段階であり、「本格的な」咬合力の低下、舌口唇運動の低下、そして摂取量の減少の段階に陥らないように早めの対応をとることが重要である。オーラルフレイルへの基本的な対応は①硬い食品を食べることができるように歯科治療を受けてもらうこと②意識的に咀嚼や口唇・舌の運動を促す食品を選択してもらうこと③摂食嚥下機能にかかわる筋力を維持・回復させるため、たんぱく質を中心とした適切な栄養摂取を促すこと、進行すれば④唾液腺のマッサージ、口唇の運動、および舌の筋力訓練なども必要となる。

○成功する歯周再生療法 Save Teeth（松井徳雄）

* 1980 年代末になって GTR 法が発表され、その後 EMD や成長因子などが臨床応用されるようになり、現在では、さまざまな骨欠損に対して再生療法が臨床で広く行われるようになった。再生療法は非常にテクニックセンシティブであり、患者固有の全身状態や歯周組織の状態によっても治療効果は大きく左右される。適応症の選択、切開、剥離、デブリッドメント、縫合などを基本原則に忠実に適切に遂行することが良い結果につながると考える。Dr. Myron Nevins は「再生療法は切除療法の延長線上である」と言っているが、切除療法の前には非外科療法があり、診査・診断がある。再生療法で良好な結果を得るためには「基本」が大切であると考えます。

歯科評論／2016. 8月号（居樹副委員長 記）

○特集／審美的で高機能を実現する コンポジットレジン修復のための流儀とテクニック

—自費 CR と保険 CR をどのように説明するか？（高田光彦 大谷一紀 他）

* CR 充填、完璧に充填することは非常に難しいですね。気泡が入ったり、ステップを作ったり、色調がイマイチなんてことが起こりがちです。それを保険治療でなく、差別化をして自費治療として行おうという考え方も少しずつ出てきています。いかにして完璧に自費の CR 充填を行うか、患者さんへの説明や充填のテクニックなど症例を交えながら解説しています。また保険と自費とのかかった時間、使用材料、治療費などを比較しています。これを読んで自費の CR 充填に挑戦してみたいかがでしょう。

○すぐに臨床応用できる補綴装置撤去のコツ 1. パー類を用いた補綴装置撤去

第2回 セラミックス、CAD/CAM 冠、チタンなどにも対応するパーの種類と使い方

（栗原淳之 井上絵理香 他）

* パー類を用いた補綴装置撤去のコツ、第2回はセラミックス、CAD/CAM 冠、チタンなどにも対応するパーの種類と使い方です。近年補綴物はどんどん進化した、丈夫なものになってきています。しかし再治療が必要なときそれを撤去しなければならない場面に遭遇することもあります。そのときを考えるとゾッとしませんか。それをストレスなく撤去するには器具やテクニックが必要となります。これから遭遇するその時のためぜひチェックしてください。